

診療科別眼科 プログラム（必修）

2026_KTGH

頁

1/3

研修の特徴	プライマリ・ケアの力を得る機会として、眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科を各1週間ローテ研修する。	
研修医に周知しておきたいこと	①前週末までに部長へあいさつに来ること	
	②朝8:45までに眼科外来に来て当日の予定を把握する	
	③月曜夕方カンファレンスあります	
	④点滴・内服の処方おこなう、またICには同席する	
回診予定	火曜日・木曜日午前、病棟回診に同行	
多職種カンファレンス予定		
ACP 社会復帰支援 研修の場	4者カンファレンス	火曜日 14:45、木曜日 13:45
	退院支援カンファレンス	火曜日 15:00

1. 指導医

○空野 久美子、鈴木 恵奈、中野 裕太（○：責任指導医）

2. 一般目標

プライマリ・ケアに必要とされる所見の取り方、分析方法を学習する。

3. 個別行動目標

- (1) 眼科日常診療でよく遭遇する疾患を想定して、簡潔・明瞭に問診をとることができる。
- (2) 眼科領域における各種検査眼科領域で行われる検査について、その検査方法・検査結果の説明についてある程度行える。一部検査については、自身で行える。
- (3) 眼科領域における薬物治療：代表的な疾患についての薬物治療につき、その適切な使用法につき説明できる。
- (4) 眼科領域における手術治療：白内障、緑内障、糖尿病性網膜症、網膜剥離等の手術助手が適切にできる。
- (5) 救急外来での眼疾患初期対応を的確に行えるようにする。
- (6) 目の見えにくい患者に配慮できる。

4. 学習方略

4.1 1年次の必修研修：1週

4.2 前週末までに、部長へ挨拶に来ること

4.3 病棟診療業務

- (1) 主担当医として入院患者を受け持ち、主治医（指導医・上級医）の指導のもと、問診・理学的所見・検査データの把握を行い、治療計画立案に参加する。

診療科別眼科プログラム（必修）

頁

2/3

- (2) 主担当医に指名された際は、電子カルテの入院オーダーで「担当医1」として自身の氏名が表示されるよう入力する。
- (3) 術後の患者への説明に同行し、術後翌日に患者の診察見学を行う。また、病棟処置を主治医とともに行う。

4.4 外来診療業務

- (1) 上級医が診察した患者に対して斜視・弱視検査、眼球運動検査について簡単な診察を行う。
- (2) 上級医が診察した患者に対して細隙灯顕微鏡にて、基本的な前眼部の観察を行う。
- (3) 外来検査
 - ① 視力検査を正確に行う。
 - ② 非接触型の眼圧計で、眼圧測定を行う。
 - ③ 視野検査の原理を理解し、代表的疾患につき結果を説明できるようにする。

4.5 手術業務

- (1) 主に手術助手として手術に参加する。簡単な縫合を行う。

5. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	手術	病棟回診・ 外来診察	手術	病棟回診・ 外来診察	外来診察
午後	手術	レーザー・ 斜視検査・ 手術	手術	レーザー・ 術前検査・ 手術	レーザー・ 斜視検査・

6. 経験目標

6.1 経験すべき診察法・検査・手技等

6.1.1 医療面接

- (1) 患者を毎日診察する。
- (2) 患者の病歴の聴取と記録ができる。
- (3) 患者・家族への適切な指示・指導ができる。

6.1.2 基本的な身体診察法

- (1) 流行性角結膜炎など結膜炎の診断ができる。

6.1.3 基本的な臨床検査

- (1) 視力検査を理解し、実施できる。
- (2) 視野検査を理解し、実施できる。
- (3) 眼圧検査を理解し、実施できる。

6.1.4 基本的な臨床手技

- (1) 細隙灯顕微鏡検査ができる。
- (2) 散瞳後の眼底検査ができる。

6.1.5 基本的治療

診療科別眼科プログラム（必修）

頁

3/3

-
- (1) 眼科で使用する点眼薬の適応、禁忌について述べる事ができる。

6.2 経験すべき症候 *必須 ◎責任担当科（番号は 29 症候番号）

- (1) 視力低下
- (2) 眼脂、充血（結膜）
- (3) 視力障害※◎(11)、視野狭窄
- (4) 急性緑内障発作
- (5) 網膜動脈閉塞症
- (6) 眼外傷

6.3 経験すべき疾患 *必須 ◎責任担当科（番号は 29 症候番号）

- (1) 白内障
- (2) 緑内障
- (3) 糖尿病網膜症
- (4) 加齢黄斑変性
- (5) 屈折異常（近視、遠視、乱視）
- (6) 角結膜炎

7. 評価

7.1 形成的評価

- (1) ローテート中に入院症例にて経験した症候、疾病・病態に対する病歴要約を 1 件作成する。
作成方法：カルテに記載した SOPA 記事を、研修医評価システムへ貼り付け考察を加える。

7.2 到達目標評価

- (1) ローテート中に経験した習得事項から、資質・能力に対する内省コメントを 1 件以上作成する。
- (2) 研修医評価システムにて、EPOC I・II・III の評価表を用いた指導医・看護師・薬剤師を含む多職種より 360 度評価を行う。